

<b>会計名</b> 一般会計			<b>認定農業者等育成促進事業</b>				<b>担当部</b> 経済環境部	
<b>款</b> 6			<b>項</b> 1				<b>担当課</b> 農政課	
<b>目</b> 3			<b>分野</b> 産業振興 農業 担い手の育成				<b>課等長名</b> 塚本 秀樹	
							<b>作成者</b> 近藤 延弘	
P A L A N 事業概要	<b>目的</b>	安定した農業経営と有効的な農地の活用を行うために認定農業者等に対する農地の利用集積を強力に推進し、本市の農業の構造改革を進める。				<b>主たる内容</b>	営農改善組合等を通して行う効率的な農地利用のため、認定農業者等への面的集積（利用権設定、農作業受託）に対して補助金を交付する。	
	<b>対象者</b>	認定農業者、特定農業団体、営農組合						
	<b>実施方法</b>	直営	<b>位置づけ</b>	<b>関連計画</b>	農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想			
	<b>事業期間</b>	H16 ~ H22		<b>根拠法令</b>	刈谷市農業振興事業補助金交付要綱			
	<b>20年度実績</b>		<b>21年度実績</b>		<b>22年度実績</b>		<b>23年度計画</b>	
利用権設定156.4haに5,474千円、農作業受託208.7haに7,305千円を交付した。		利用権設定180.9haに6,332千円、農作業受託201.2haに7,042千円を交付した。		利用権設定172.8haに6,048千円、農作業受託201.8haに7,063千円を交付した。		(農用地利用集積奨励金補助事業へ移行)		
B D O 業績	<b>成果</b> (できたこと)	平成16年度末の認定農業者数は、個人が46人であったが、平成22年度末には個人が42人、法人が2組(7名の構成員と1名の構成員)となった。						
	<b>課題</b> (できなかったこと)	認定農業者は、年齢によってやめていく方も見えるので、若い農業者を認定していくことも必要である。また、認定農業者の増減に関わらず、現在の農地を管理・維持していくことが必要となる。						
	<b>指標名称</b>			<b>実績値</b>			<b>目標値</b>	
				20年度	21年度	22年度	23年度	25年度
	新規認定農業者の認定数			3人	2人	4人	2人	2人
他市との比較検証								
C 事業コスト	<b>総事業コスト</b>	20年度(決算)	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(予算)	平成22年度事業費内訳		
	単位：千円			14,924		19 負担金、補助及び交付金	13,111,843 円	
	事業費	12,779	13,374	13,112		合計	13,111,843 円	
	<b>財源</b>	特定財源	0	0	0			
		一般財源	13,374	13,112				
		職員人件費			1,812	0		
<b>建設事業</b>	全体事業費		0	備考(補助名称等)				
	22年度迄の累積事業費		0					
	24年度以降の事業費見込							

会計名			<b>認定農業者等育成促進事業</b>	担当部	経済環境部
一般会計				担当課	農政課
款	項	目		課等長名	塚本秀樹
6	1	3		作成者	近藤延弘

		各視点からの評価		評価の理由・特記事項	内部評価総括		
		CHECK(評価)	D 内部評価	必要性	高い	これからの農業を担ってゆく農業者育成のため必要である	この事業は、農業後継者不足の中、本市の農業を担っている認定農業者の経営規模の拡大、農作業の効率化、遊休農地化の抑制を図るべく、農地の集約化に貢献している。また、国の政策でもある、米の転作を進める上でも必要な事業である。
効率性	普通		農地の集約が進んでおり、新規の認定農業者も毎年認定している				
妥当性	高い		認定農業者への集積を進めることで経営の改善を進め、農地の保全、農業の振興につながるため必要である				
施策への貢献度	高い		担い手の経営規模の拡大に努め、農作業の効率化を図っている				
		行政評価委員の総括			評価年月日	平成23年8月3日	
		<p>○ 専業農家にターゲットを絞って事業を行うことは、目的として適切と言える。</p> <p>○ 農業を基幹産業とする都市と違い、刈谷市のような工業都市では農業に対する補助金について市民への説明が必要。農業を助成することの説得力として数値による説明や、工業都市でも農地、農業が重要であることを説明する努力が必要である。</p> <p>○ 刈谷市としての農業施策のあるべき姿に基づいて、どういう施策をするのか考えていかなければいけない。</p> <p>○ 1人当たりの補助金額が少ない。この程度の金額で農家が規模拡大をするインセンティブが働くのか。優遇になっていないのならば税金の無駄である。</p> <p>○ 市内の細かい農地に対して補助ができていないのではないか。そのような農地で耕作ができる仕組みになっているのか疑問である。</p>					
		<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: mixed;">E 外部評価</p>					